

平成 23 年 度

大分大学大学院医学系研究科

修 士 課 程

学 生 募 集 要 項

医 科 学 専 攻

看 護 学 専 攻

平成22年 7 月



OITA UNIVERSITY

大 分 大 学

目 次

○ 大分大学大学院医学系研究科アドミッション・ポリシー	1
【医科学専攻】	
1. 入試日程	4
2. 募集人員	4
3. 出願資格	4
4. 出願資格認定	5
5. 出願手続	6
6. 出願上の注意事項	7
7. 受験票の交付	7
8. 入学者選抜方法	8
9. 長期履修制度について	8
10. 社会人への特例措置	9
11. 入学案内	9
12. 医科学専攻 授業科目の講義等の概要及び担当教員	10
13. 医科学専攻 授業科目及び単位数	19
14. 医科学専攻 授業時間割概要	19
15. 医科学専攻 指導教員（教授等）の連絡先一覧	20
【看護学専攻】	
1. 入試日程	24
2. 募集人員	24
3. 募集する専攻コース	24
4. 出願資格	24
5. 出願資格認定	25
6. 出願手続	25
7. 出願上の注意事項	27
8. 受験票の交付	27
9. 入学者選抜方法	27
10. 修了後の取得資格について	28
11. 長期履修制度について	28
12. 社会人への特例措置（昼夜開講制）	28
13. がん専門看護師の資格取得を希望する者の履修について	29
14. 入学案内	29
15. 看護学専攻 授業科目の講義等の概要及び担当教員	30
16. 看護学専攻 履修方法及び概略図	36
17. 看護学専攻 指導教員（教授等）の連絡先一覧	38
【共通事項】	
1. 障がいのある者等の事前相談について	40
2. 合格者発表	40
3. 入学手続	40
4. 修了の要件	40
5. 学位の授与	40
6. 入学料及び授業料	41
7. 奨学金制度	41
8. 大分大学入学料・授業料奨学融資制度	41
9. 学生教育研究災害傷害保険制度	41
10. 問い合わせ先	41
11. 大分大学位置図	42

大分大学大学院医学系研究科アドミッション・ポリシー

基本理念

複雑化・高度化する医学・医療の分野で、常に最新の学術を教授・研究し、高度の医学及び看護学の知識と技術並びにそれらの本義を見失わない倫理観と、それを支える豊かな教養を身につけた教育・研究者及び医療人を養成し、もって医学及び看護学の進歩、国民の健康の維持増進、更に医療・保健を中心に地域及び国際社会の福祉に寄与することが基本理念です。

教育の目標

修士課程

優れた指導力を持った教育・研究者、医療人及び技術者を育成するため、理論的・実践的教育を通じて、医学・医療の諸問題に対処できる判断力と問題解決能力の涵養を図ります。

(医科学専攻)

体系的・集中的な教育により、医学以外の専門知識を備えた人材に、それぞれの専門分野と融合した新たな医学に関わる教育・研究分野や技術を創出できる研究者の養成を目指します。

(看護学専攻)

社会や保健・医療・福祉の変化を見据え、看護の質向上を実現できる実践力を養い、看護実践・看護管理・看護教育の場でリーダーシップを発揮できる高度専門職業人の養成を目指します。

博士課程

(略)

求める学生像

修士課程

(医科学専攻)

- 1 医学の基本的知識や研究手法を理解・吸収し、各自の専門分野の研究や技術に応用することにより新しい発想の研究や技術開発を志す人
- 2 近年の医学・医療を取り巻く環境を理解し、全ての人々が健康で幸福な生活を享受できる社会の実現を目指し、新たな視点で保健、医療、福祉等の問題解決への取り組みを志す人
- 3 医学と各自の専門分野との融合を図り、健康増進に関連する産業界の活性化への貢献を志す人
- 4 豊かな人間性や指導力を持った教育・研究者として自立し、博士課程への進学を志す人

(看護学専攻)

- 1 看護実践及び看護管理に関する高度な専門知識及び技術の習得を志す人
- 2 保健・医療・福祉の専門職との連携において、看護専門職として主体的行動ができ、優れた指導力を発揮する能力を培うことを志す人

- 3 看護の理論と実践に関する豊富な知識と高度な技術を習得し、優れた教育活動の実施を志す人
- 4 看護理論の検証や看護技術の開発・検証を行い、実践に応用することを志す人
- 5 複雑かつ多様な健康問題について、柔軟に対応することができ、学術的・国際的に活躍することを志す人

博士課程

(略)

入学者選抜方針

修士課程

(医科学専攻)

前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、医学以外の学部出身者を対象に、近年急速な進歩により著しい発展を遂げた医学・医療の分野を多様な観点から捉え直す能力を求めます。そのため、各自の多様な専門分野と医学の分野との融合に関して明確な目的意識と基礎的知識及び柔軟な発想を求めます。

(看護学専攻)

前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、昼夜開講制を導入して看護職経験者を積極的に受け入れます。こうした志願者を含め看護学の更なる探求心と倫理観豊かな医療人としての素養を求めます。

博士課程

(略)

医 科 学 専 攻

平成23年度医科学専攻学生募集要項

1. 入試日程

区 分	第1次募集	第2次募集	第3次募集
出願期間	平成22年8月23日(月) ～平成22年8月27日(金)	平成23年1月5日(水) ～平成23年1月11日(火)	平成23年2月21日(月) ～平成23年2月22日(火)
試験日	平成22年9月27日(月)	平成23年1月25日(火)	平成23年3月8日(火)
合格者発表	平成22年10月15日(金)	平成23年2月9日(水)	平成23年3月20日(日)

※募集人員に満たない場合は、第3次募集まで実施予定です。

※第2次募集、第3次募集を行う場合は、大分大学ホームページでお知らせします。

2. 募集人員

医科学専攻 15名

3. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者（平成23年3月末までに出願資格に該当する見込みの者も可）

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号）
- (6) 大学に3年以上在学した者、外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者、又は我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めたもの
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 本学大学院において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したものと及び平成23年3月末日までに22歳に達したもの

4. 出願資格認定

出願資格(6), (8)のいずれかにより出願しようとする者については, 事前に出願資格の審査を受け, 出願資格を有することが認定された者のみ出願することができますので, 関係書類を次により提出してください。(出願資格認定を希望する者は, 事前に志望する指導教員に相談してください。)

(1) 出願資格(6)により出願しようとする場合 (提出された書類は返還しません。)

提出書類	摘 要
① 出願資格認定申請書	本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。
② 受験の動機	
③ 最終学歴に関する証明書等	卒業(修了)証明書, 成績証明書 (短期大学又は高等専門学校の専攻科を卒業(修了)した者は, 短期大学又は高等専門学校の卒業(修了)証明書, 成績証明書を併せて提出してください。)
④ その他の資料	科目等履修生等の成績証明書

(2) 出願資格(8)により出願しようとする場合 (次の認定基準を満たしている場合に限りませす。)

① 認定基準

医療系短期大学又は専修学校専門課程(修業年限4年未満)の卒業者で, 次の各号全てに該当するもの

ア 卒業時に取得できる資格を有し, 4年制大学卒業に不足する年数以上の実務経験もしくはそれに準ずる実務・研修経験があること。

イ 研究テーマを持ち, 意欲的に学ぶ姿勢があること。

② 提出書類 (提出された書類は返還しません。)

提出書類	摘 要
① 出願資格認定申請書	本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。
② 受験の動機	
③ 最終学歴に関する証明書等	卒業(修了)証明書, 成績証明書 (短期大学又は高等専門学校の専攻科を卒業(修了)した者は, 短期大学又は高等専門学校の卒業(修了)証明書, 成績証明書を併せて提出してください。)
④ その他の資料	科目等履修生等の成績証明書, 医学・医療に関する研究会やセミナー等に参加したことを確認できるもの等。
⑤ 業績一覧	本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。(主な業績のコピーを各1部添付してください。ただし, 提出する業績は3篇までとします。)
⑥ 研究計画書	本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。

- (3) 提出期間 第1次募集 平成22年7月20日(火)～7月23日(金)17時まで(必着)
 第2次募集 平成22年12月1日(水)～12月3日(金)17時まで(必着)
 第3次募集 平成23年1月24日(月)～1月25日(火)17時まで(必着)

(4) 提出方法 郵送に限ります。

「速達簡易書留」郵便で, 封筒の表に「出願資格認定申請書在中」と朱書きし, 郵送してください。

(5) 提出先 大分大学学生支援部入試課(旦野原キャンパス)

- (6) 認定の結果 認定の結果は、下記期日までに本人に通知します。
- | | |
|-------|----------------|
| 第1次募集 | 平成22年8月10日(火) |
| 第2次募集 | 平成22年12月20日(月) |
| 第3次募集 | 平成23年2月14日(月) |


5. 出願手続

- (1) 出願期間
- | | |
|-------|---------------------------------|
| 第1次募集 | 平成22年8月23日(月)～8月27日(金)17時まで(必着) |
| 第2次募集 | 平成23年1月5日(水)～1月11日(火)17時まで(必着) |
| 第3次募集 | 平成23年2月21日(月)～2月22日(火)17時まで(必着) |

(2) 出願方法

- ① 第2志望まで出願することができます。
- ② 出願を希望する者は、**出願する前に志望する指導教員(P.20～P.21に掲載されている指導教員の連絡先一覧を参照)と必ず連絡を取り、直接面談か電話又は電子メールの方法により進学希望等について、十分相談の上で出願してください。**なお、第2志望まで出願する者は、第2志望の指導教員にも必ず事前に連絡を取ってください。
(教員の研究内容については、大分大学ホームページ(<http://www.oita-u.ac.jp/>)をご参照ください。)
- ③ 出願書類等は、持参又は郵送により提出してください。
- ④ 願書受付場所 大分大学学生支援部入試課(旦野原キャンパス)
- ⑤ 受付時間 9時から17時まで
- ⑥ 郵送の場合 「速達簡易書留」郵便で下記あてに郵送してください。
(あて先)〒870-1192 大分市大字旦野原700番地
大分大学学生支援部入試課

(3) 出願書類等(提出された書類は返還しません。)

出 願 書 類 等	摘 要
① 入 学 志 願 書	本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。
② 受 験 票 ・ 写 真 票	
③ 入学検定料払込証明書 (30,000円)	<p>以下のいずれかの方法により本学指定口座に振込んでください。</p> <p>①金融機関(郵便局又はゆうちょ銀行含む)窓口での払込 本学所定の振込用紙を用い、金融機関(郵便局又はゆうちょ銀行含む)窓口で振込手続を行ってください。</p> <p>②コンビニエンスストア(一部)での払込 本学ホームページ http://www.oita-u.ac.jp/ から払込専用ホームページへアクセスするか、直接下記URLにアクセスし、指示に従い払込手続を行ってください。 (払込専用URL) http://www.oita-u.net/ (携帯電話用URL) http://www.oita-u.net/mobile/</p> <p>※フィルタリングサービスをご利用の携帯電話からは、アクセスできないことがあります。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>振込み後は、①の場合は「郵便振替払込受付証明書(大学提出用)」を、②の場合は収納証明書(コンビニによっては領収書)を、受験票下の貼付欄にはがれないように糊付けしてください。 ※手数料は本人負担です。 ※国費外国人留学生については、納付する必要はありません。</p>

④ 受験の動機	本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。 (ただし、出願資格認定申請時に提出済みの場合は、不要です。)
⑤ 成績証明書	出身学校等の長が証明したもの。 (ただし、出願資格認定申請時に提出済みの場合は、不要です。)
⑥ 卒業(見込)証明書 又は修了(見込)証明書	
⑦ 学位授与証明書 又は学位授与申請書 受理証明書	出願資格②に該当する者は、大学評価・学位授与機構が証明した学位授与証明書又は学位授与申請書受理証明書を提出してください。
⑧ あて名票	本要項に添付しているあて名票に志願者の郵便番号、住所(合格通知等を受け取る場所)及び氏名を必ず記入してください。
⑨ 受験票等送付用封筒	本要項に添付している本学所定の長形3号の封筒に郵便番号・住所・氏名を明記し、郵便切手(350円)を貼ってください。
⑩ 外国人登録原票 記載事項証明書	日本に在住する外国人は、市・区・町・村長の発行した外国人登録原票記載事項証明書を提出してください。なお、入学志願書等には、この証明書記載の氏名を記入してください。
⑪ 受験及び就学承諾書	在職のまま在学しようとする者(本要項P.8参照)は、出願に際して本要項に添付している本学所定の用紙により、所属機関長の受験及び就学承諾書を提出してください。また、提出にあたっては、 事前に指導教員と相談 してください。

6. 出願上の注意事項

- (1) 入学志願書の記入漏れ等がないように十分留意してください。
- (2) 一度受理した出願書類等及び入学検定料は、いかなる理由があっても返還しません。
- (3) 出願期間後に到着したもの及び出願書類等の不備なものは受付できません。
- (4) 出願書類等は一括してとりそろえ、志願者が直接出願してください。
- (5) 出願書類の記載事項と事実が相違していることが判明した場合は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。
- (6) 入学志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人大分大学個人情報保護ポリシー」に基づき、入学者選抜に係る業務・統計処理などの付随する業務以外には利用しません。ただし、入学金・授業料免除(猶予)及び奨学金を申請した者にとっては、選考資料として利用します。

7. 受験票の交付

受験票は、出願書類受理後、本人に郵送により交付します。

なお、試験前日までに受験票が到着しないとき、又は受験票を紛失したときは、出願時に提出したものと同一の写真を1枚持参の上、試験当日の9時30分から10時までに受付へ申し出てください。

8. 入学者選抜方法

(1) 学力検査等

小論文、口述試験及び成績証明書により行います。

(2) 試験期日及び学力検査科目

期	日	科目名等	時 間
第1次募集	平成22年9月27日(月)	小論文	10時30分～12時00分
第2次募集	平成23年1月25日(火)		
第3次募集	平成23年3月8日(火)	口述試験	13時00分～

※試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後20分以内に試験室へ到着した場合に限り、受験を認めます。

(3) 試験会場

大分大学医学部 挾間キャンパス

所在地 由布市挾間町医大ケ丘1丁目1番地 (P.42大分大学位置図参照)

交通アクセス ◎バス利用 (大分バス)

トキハデパート (府内町) 前又はJR大分駅前から「大学病院」行きを利用
「大学病院」下車 (所要時間約40分:410円)

9. 長期履修制度について

この制度では、標準修業年限を超えて計画的に授業科目を履修し修了することにより学位を取得することができます。長期履修制度を利用できる対象者は、有職者及び正規の履修期間内で修学が困難な事情がある者 (家事、育児及び介護など) です。

この制度の利用は原則として入学時の申請により認められます。また、修学状況等の変動により、申請した修業年限を短縮することも可能です。

長期履修学生として認められた場合の授業料は、下記の「授業料の納入例」を参照して下さい。

また、入学後履修期間を延長する場合、授業料総額に追加的費用が発生します。

なお、申請方法等については後日合格通知書等でお知らせします。

【授業料の納入例】 (年度により変更がないと仮定した場合)

標準修業年限 (2年)

1年次 (535,800円)	2年次 (535,800円)	1,071,600円
-------------------	-------------------	------------

ア 入学時に申請し、3年の長期履修学生として認められた場合の授業料年額

1年目 (357,200円)	2年目 (357,200円)	3年目 (357,200円)
-------------------	-------------------	-------------------

$$1,071,600円 \div 3年 = 357,200円$$

イ 入学時に申請し、4年の長期履修学生として認められた場合の授業料年額

1年目 (267,900円)	2年目 (267,900円)	3年目 (267,900円)	4年目 (267,900円)
-------------------	-------------------	-------------------	-------------------

$$1,071,600円 \div 4年 = 267,900円$$

10. 社会人への特例措置

近年、大学院における社会人の再教育への要望が高まっていますが、通常の教育方法のみで大学院教育を実施した場合、社会人は勤務を離れて就学することが必要となるため、大学院教育を受ける機会が制約されることになります。

このことを踏まえ、本学修士課程医科学専攻では、平成20年度より社会人が更なる探求の機会を取得できるように、社会人に配慮して、夜間に授業を開講することで履修・修学しやすい環境を整備しています。(P.19参照)

11. 入学案内

1) 大分大学大学院医学系研究科の理念

最新の学術を教授・研究し、高度の医学及び看護学の知識と技術並びにそれらの本義を見失わない道徳観と、それを支える豊かな教養を身につけた医療人及び研究者を育成し、もって医学及び看護学の進歩、国民健康の維持増進、さらに医療・保健を中心に地域及び国際社会の福祉に貢献する。

また、「患者本位の最良の医療」を基本理念とし、高度先進医療の開発と提供及び倫理観豊かな医療人の育成により地域社会の医療・福祉の向上に貢献する。

2) 大学院医学系研究科修士課程の教育目標

医療全般にわたって広い視野と高い見識を持ち、優れた指導力を持った教育者、研究者及び国際社会に貢献できる人材を育成する。

3) 大学院医学系研究科修士課程医科学専攻の教育目標

医療人として以下の資質を備えた人材を育成する。

- ① 医学の基本的知識や研究手法を理解、吸収し、各自の専門領域の研究や技術に応用し、新しい発想の研究や技術開発に貢献する人材
- ② 近年の医学・医療を取りまく状況を理解し、地域の全ての住民が健康で幸福な生活を享受できるよう、新たな視点で保健、医療、福祉等の問題解決に貢献する人材
- ③ 医学と各自の専門領域の融合を図り、健康増進に関連する産業界の活性化に貢献する人材
- ④ 豊かな人間性や指導力をもった教育・研究者として自立し、医学系研究科博士課程等への進学を目指す人材

4) 修業年限

2年を標準とします。

5) 学生定員

定員	入学定員	収容定員
専攻		
医科学専攻	15	30

12. 医科学専攻 授業科目の講義等の概要及び担当教員（平成22年度）

授業科目名	講 義 等 の 概 要	担当教員
基礎生命科学概論	<p>医科学研究に必要な生命科学の知識の習得は、大学院生にとって自学自習によることが基本である。本授業は生命科学の基本的項目を呈示・説明し、かつ各項目の相互関係の理解を促進することで、各自の学習、特に細部にわたる具体的な事柄までの学習が容易になるように補助することを目的としている。従ってテキスト等成績評価では、当然各自の個別学習の成果があがっているか否かを問うこととなる。</p>	<p>渡 邊 誠 長谷川 英 男</p>
人 体 形 態 学	<p>人体の構造の基本的成り立ちについて、細胞、組織、器官、系統、個体レベルまで系統的に講義する。講義を通して、それぞれの形態的特徴と機能の持つ必然性を理解させ、生命体としての人体の構造と機能を臓器別に教示する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 肉眼レベルでの各器官・系統及び局所解剖を概説し、人体の構造を形態科学の見地により理解させる。 2. 人体の発生について、受精から分化・器官形成までを個体発生と系統発生の両面から概説し、比較動物形態学の見地により理解させる。 3. 顕微解剖学として、細胞や組織レベルでの形態的側面（組織学）を概説する。さらに、光学顕微鏡（特殊顕微鏡も含む）や電子顕微鏡観察の理論と実際にふれ、超微形態学の研究方法を理解させる。 	<p>濱 田 文 彦 藤 倉 義 久 伊 奈 啓 輔 三 浦 真 弘 北 村 裕 和 紀 瑞 成</p>
人 体 機 能 学	<p>(概要) 人体機能学（生理学）は生命現象を物理化学的基礎と方法に基づいて究明する学問である。したがって、一般生理学について広い観点から生物に共通する現象や法則性を学ぶ。さらに一般生理学の基礎に立って人体生理学を概説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 植物的機能の生理 (担当：小野) 本講義では循環や呼吸等、生体の自律活動と関係の深い植物機能全般について学ぶ。具体的には、まず細胞の一般的機能を学び、次に各論的に、血液循環、消化器、内分泌、腎・体液、呼吸機能等へと理解を深め、さらに種々の病態を理解できる応用力を養う。 2. 動物的機能の生理 (担当：横井) 本講義では、感覚や情報処理等、外界への働きかけに関係の深い動物機能全般について学ぶ。具体的には、感覚機能、高次神経機構、運動制御等について学習する。 3. 病態生理学 (担当：小野) 人体機能学（生理学）は生命現象のメカニズムを研究する学問であり、科学的手法を用いて機能面を重視する。その学習のためには種々の基礎的知識や技術を生かし、生命現象に内在する法則性を見出すことで、さらに総合的な生命現象を論じることが肝要である。 	<p>小 野 克 重 横 井 重 功</p>

授業科目名	講義等の概要	担当教員
分子医科学	<p>生物を構成するタンパク質，糖質，脂質等の物質の構造，性質，機能及びそれらの合成，分解，相互作用や調節について講義を行う。また，それに関連した病態について講義を行う。</p>	吉岡秀克 松尾哲孝
病理・病態学	<p>(概要) 病気の本質，原因，異常状態の進展，病的過程における構造及び機能の変化について教示し，病態の機構を習得させる。 (オムニバス方式) (横山) 腫瘍と変性・代謝障害の病理 (守山) 「炎症」「循環障害」の病理病態について講義する。</p>	横山繁生 守山正胤
社会医学	<p>1. 人間集団における疾病の分布やその発生要因を解明する手段として疫学がある。疫学研究で得られた知見として，生活習慣病や感染症のリスク要因を学ぶと共に，複合した要因から主要なリスク要因を選別する保健統計解析を供覧する。また，病原体の遺伝子系統樹解析から新たな知見が得られることを教授する。</p> <p>2. 法医学は，法律上問題となる医学的事項を研究し，これに解決を与える社会医学である。</p> <p>最近，親子鑑定を必要とする民事事件が増加しており，血液型とDNA多型分析による親子鑑定・個人識別を例にとって，人類遺伝学の基本に触れ，分子生物学的解析法についても理解を深めることを目標とする。</p>	岸田哲子 青野裕士
環境生命科学	<p>環境生命科学は環境と生命との関係について学ぶ学問分野である。人類は生まれてその生を終えるまでの約80年間に様々な環境の中において適応しつつ存在している。人は有害環境によって健康を阻害される。</p> <p>その環境は自然環境から始まり，人の営みによって作られた人為的環境まで及ぶ。自然環境及び人為的環境は物理的，化学的，生物学的環境に分類される。更に，人為的環境は社会環境や精神心理学的環境をも包含している。</p> <p>1. 物理的環境—騒音，振動，電磁波，放射線など 2. 化学的環境—有機溶剤，重金属，特定化学物質，環境ホルモン，農薬，タバコ，アルコール，ビタミンなど栄養素，ミネラルなど 3. 生物学的環境—ウイルス，細菌，原虫，寄生虫，カビ，衛生昆虫など 4. 社会的環境—インフラ整備と健康，教育と健康，健康増進法と健康（特に，受動喫煙の防止対策）</p> <p>これら有害環境が人の細胞や臓器に影響を及ぼし，その恒常性を破壊するメカニズムについても学ぶ。</p>	山岡吉生

授業科目名	講 義 等 の 概 要	担当教員
臨床医学概論	<p>1. 臨床医学は確かな医学の知識に基づく，診断と治療に関する臨床的能力と人間性を必要とする。臨床医学に関する総合講義を行い，その基礎知識を習得し，医科学研究の礎とする。人間の成長と発達，その障がいの観点から講義，討論を行い，胎児や乳幼児の発育と成長，脳神経系の発達と疾病，これらの基礎病態について討論する。 (担当：泉)</p> <p>2. 外科手術は病める患者の病態を正確に把握し，手術という人為的外傷を与えることで治療行為を行う有用な治療手段である。病態に応じてどのような手術が必要か？生体は，この人為的外傷に対してどのような反応を生じ動的平衡を維持するのか？手術に伴う合併症はどのようなものがあるか？本講義では外科手術を必要とする病態の把握と，それに基づいた手術方法，及び外科治療の功罪について理解を深めることを目的とする。 (担当：北野)</p> <p>3. これからの高齢化社会に最も必要な内科呼吸器領域の疾病にかかわる症候学，診断学，治療学の基礎知識の習得及び疾病の原因，病態，予防等に関する基礎知識の習得を目的とする。 (担当：門田)</p> <p>4. 産科婦人科における基礎・臨床的領域に関する総論的講義を行い，それらの基礎知識を習得させる。 (担当：楢原)</p>	<p>泉 達 郎 北 野 正 剛 門 田 淳 一 楢 原 久 司</p>
生命倫理学	<p>医療におけるインフォームドコンセントのあり方，臨床研究・臨床試験・新薬の治療における論理と倫理，臓器移植，再生医療，遺伝子治療，ヒトゲノム・遺伝子解析等の近年急激に発展してきた現代医療の技術進歩に伴い，新たに生じてきた生命倫理的諸問題に焦点を当てる。特に，西欧文化とは異なる日本文化の中で生きている日本人の心情を理解しながら，主として，ロールプレイ法やディベート法を採用して生命倫理学の考え方を学習する。</p>	<p>中 野 重 行 大 橋 京 一 小 手 川 勤</p>
医科学演習	<p>(概要) 指導教員の所属するセミナー等に参加し，最新の技術や知見に触れさせ，研究の思考過程を理解させるとともに，研究に必要な種々の方法論を習得させる。</p>	<p>教員全員</p>
医科学特別研究	<p>(概要) 教員の指導のもとに，研究テーマを設定し，情報収集・実験計画立案により実験を行い，修士論文を作成させる。</p>	<p>教員全員</p>

授業科目名	講 義 等 の 概 要	担当教員
基礎生体科学	<p>主に生命科学系以外の学部から入学した学生を対象として、生命科学系出身者との格差を是正し生命科学を基礎とした高度の医科学を学ぶのに必要な基礎知識を習得させる。細胞の基本的性質、酵素の生体触媒としての基本的構造と機能など、生命活動を支える機構の全般的な生体科学を習得させる。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(長谷川) 細胞の基本的性質である増殖と分化について、具体例を基に学ばせる。</p> <p>(下田) ポリペプチドとしての酵素の立体構造と機能の関係について学ばせる。</p> <p>(久保田) 酵素の精製、分類及び酵素の活性部位について理解させる。</p> <p>(羽野) 酵素反応速度論の基礎及び反応速度式について習得させる。</p>	<p>長谷川 英 男 下 田 直 恵 久保田 直 治 羽 野 直 忠</p>
人体形態学実習	<p>系統解剖や病理解剖を見学させ、人体構造と機能の詳細を学ぶと共に、疾病による形態の変化をマクロ・ミクロの両面から習得させる。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(濱田・藤倉)</p> <p>第1回目：小動物を用いた解剖 ラット，マウスを用い実際に解剖を行い、正常構造を学習する。</p> <p>第2回目：組織学実習（総論） 細胞とは、上皮組織，支持組織，筋組織，神経組織</p> <p>第3回目：人体解剖見学実習 種々臓器剖出済み御遺体の観察と局所解剖実習</p> <p>第4回目：組織学実習（各論） 中空性臓器（食道，胃，小腸，大腸など）と実質性臓器（肺，肝臓，腎臓，膵臓等）</p> <p>(岸田) 末梢血を用いて学生自身のDNA型（STR）を調べ、個人識別の原理を学ぶ。</p> <p>(横山)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病理解剖や手術材料を用いて、疾病の肉眼的変化を理解させる。 2. 病理解剖，手術，生検材料を用いて、疾病の組織学的変化を理解させる。免疫組織化学的，分子生物学的診断法を習得させる。 	<p>岸 田 哲 子 濱 田 文 彦 藤 倉 義 久 横 山 繁 生</p>

授業科目名	講義等の概要	担当教員
基礎生命科学実習	<p>(小野) 細胞の電気生理学的評価を行う為、単一培養細胞の細胞内電位の測定の実際とその解析原理を学ぶ。また、イオンチャネルの分子構造と機能連関を生物物理学的解析法で解釈する方法論を学習する。実習にはパッチクランプ法の原理を理解した後、実際に膜電流の測定法と基本的解析手順を学ぶ。更に、活動電位と細胞外電位測定法の習得、並びに筋細胞の興奮収縮連関の成り立ちを筋収縮張力実習を通して学習する。</p> <p>(西園) 感染性微生物が示す生物現象を通して、生物の構造単位である細胞を理解するようにする。微生物を扱うことで今後の研究に必要な基礎的手技として細菌、ウイルスの取り扱い、組織培養法、生物の構造単位である細胞を構成する蛋白質、脂質、核酸等の機能・性状を学び生命現象の理解・習得に努める。そのため生きた細胞(細菌)、ウイルスを実際に扱い、これを用いた以後の実験のための試料の作成をとおして基本的な細胞の性質とその取り扱い方法を学ぶ。</p> <p>(濱中) 蛋白質は酵素、ホルモン、情報の受容体、生体構造の保持物質などとして生体内で様々な役割を演じている。このような多様な役割を担っている蛋白質の生体内での正確な生化学的或いは生理的意義を研究するためには、高純度の蛋白質を精製して用いることが重要である。本実習では、硫酸沈殿、ゲル濾過、イオン交換カラムを用いて、血球より、ヘモグロビンを精製し、SDS-ポリアクリルアミドゲル電気泳動(SDS-PAGE)により解析を行う。</p> <p>(吉岡) 組換えDNA技術が開発されるまでは、DNAは生化学領域で最も困難な物質であった。しかし、現在ではDNAは細胞の巨大分子の中で最も分析しやすい物質になっている。それを可能にしたのは、1) DNA関連酵素の発見(制限酵素、DNAリガーゼ、DNAポリメラーゼ等)、2) 特定のヌクレオチド配列の検出法(サザンプロット法)の開発、3) 簡便な塩基配列決定法(サンガー法)の開発であった。本実習ではこれらの基本技術について、実習を通じてその原理を理解し、その習得を目指す。</p>	<p>小吉 野 克 重 西園 岡 秀 克 濱中 園 良 晃 伊波 中 英 志 住吉 波 秀 克 明</p>
免疫学特論	<p>免疫学総論として、免疫の歴史や概念、免疫担当臓器と免疫担当細胞やその働きについて理解させる。また、自然免疫と特異的免疫との関係、特異的免疫応答における抗原認識とリンパ球の活性化、さらには免疫グロブリンと細胞性免疫について理解させる。これら免疫反応における主要組織適合遺伝子、サイトカインと細胞接着分子、補体の役割についても理解させる。その上で、免疫に関連した臨床研究の具体例につき提示し、研究の参考になればと考える。</p>	<p>鈴木 木 正 志 渡 辺 哲 生 樋 口 安 典 平 野 隆 見 玉 悟</p>

授業科目名	講義等の概要	担当教員
感染防御医学	<p>感染生物の特徴とそれが引き起こす疾患について講義する。同時に感染症の発生とその防御の仕組みについて習得させる。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <p>(西園)</p> <p>授業の前半では、医学領域で扱う感染症の微生物には、微生物自身が示す生物現象そのものを理解する生物学的な側面と、「感染」という現象から種々の病態を引き起こす「感染症」の原因を理解する医学微生物学としての側面があることについて講義する。医科学修士課程においては、細菌、ウイルス、真菌などそれぞれに異なった微生物固有の特性を学び、高等生物と何が違うのかを十分に理解するところに始まり、その後の疾患の成立機構、経過、関与する微生物の因子、宿主側の因子、免疫応答などを総合的に理解することが望まれる。授業では主に感染性微生物の中でも、特に細菌学、ウイルス学に関する基本的生物学的知識の習得と、これらによって引き起こされる疾患との関連（病態、防御機構）を免疫学的な側面から学び、特に感染免疫に関しては、自然免疫系及び獲得免疫系を介した防御の仕組みについて知識の習得を行い、微生物と宿主のダイナミックな応答について理解を深める。講義はオムニバス形式の授業によって行われ、細菌学、ウイルス学の各分野に分かれ、その構造、分類、遺伝学などを学び、感染免疫に関わる種々の分子の働きなども学ぶ。また感染症の発生とその防御の仕組みと感染防御の仕組みの中で、自然免疫及び獲得免疫系を介した防御の仕組みを習得させる。</p> <p>(伊波)</p> <p>3回に分けて講義をおこなう。1回目は「ウイルス学総論」。ウイルスの分類とウイルス感染に起因する病態の概説をおこなう。2回目は「レトロウイルス総論」。レトロウイルスの分子ウイルス学をウイルスと宿主両者の立場から概観する。3回目は「レトロウイルス各論・HTLV-1とHIV」。ヒトに疾病をもたらす表記2種類のレトロウイルスの基礎及び臨床について解説する。</p> <p>(江下)</p> <p>感染症のなかで、特に寄生虫症を分担する。寄生虫症の発生と感染防御及び病原体である寄生原虫と蠕虫（線虫、吸虫、条虫）の生物学的特性を講義する。また、節足動物（昆虫、ダニなど）媒介性感染症の講義も一部担当する。</p>	<p>西園 晃 伊波 英 江下 優 樹</p>

授業科目名	講義等の概要	担当教員
遺伝・再生医学	<p>(北野)</p> <p>近年の遺伝学・分子生物学の進歩は目覚ましいものがあり、それに伴い診断や治療方法も変化しつつある。癌における、遺伝子診断・遺伝子治療の果たす役割について展望し、理解を深める。また、臓器移植・再生医療についても現状とその問題点について理解する。</p> <p>大学院生運営のゼミ方式で、文献購読・グループワークを通して、以下のテーマを主にオムニバス方式で展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝子・分子生物学への分化と再生 2. ヒト受精卵から組織への分化と再生 3. ヒトの遺伝の仕組み 4. 遺伝子判断と遺伝子治療 5. 癌に対する遺伝子治療 6. 再生医学 7. 臓器移植 <p>(楢原)</p> <p>遺伝学・胎生学及び生殖医学の基礎知識を講義する。また、遺伝子診断、遺伝子治療、胚性幹細胞技術、体外受精、胚移植、核移植など高度先進医療の現状について習得させる。オムニバス方式で担当します。受精、着床の生殖内分泌を基礎に遺伝、胎児発育、臨界期と奇形発生、加齢と遺伝子異常、さらに体外受精・胚移植、胚の再生医学への応用と将来への展望などの知識を習得させる。さらに体外受精・胚移植やその技術によるクローン人間など社会への影響についても教授する。</p>	北野正剛 楢原久司
臨床薬理・薬剤学	<p>治療医学の中心にある薬物療法の根幹をなし、合理的薬物療法を目指す臨床薬理学、薬剤学を理解する。このため、薬理学の基礎や歴史から、薬の作用機序、薬物治療に影響を与える因子、薬の生体内動態、薬の相互作用、新薬の開発などについて理解する必要がある。また、最近の話題としての薬物関連遺伝子についても講義を行う。</p>	大橋京一 武山正治 寺尾岳 小手川勤 森本卓哉
受容体による情報伝達と創薬科学	<p>細胞の外から与えられる刺激を細胞内に情報として伝える。これが受容体の基本的な役割である。私たちの体を構成する細胞には、ホルモン・神経伝達物質はもちろんのこと、味やにおいのもととなる物質、代謝物などさまざまな物質に対する受容体が用意されている。そして、受容体に作用するもうひとつの、そして身近な物質が病気の治療に使われる薬物、医薬品である。薬を知ることは受容体を知ることでもあり、受容体とそれに引き続く細胞内の情報伝達の研究は、新たな薬を発見するための基礎ともなっている。一連の講義では、受容体を介した情報伝達の仕組みのみならず、それが医薬研究とどのような関係にあるかを論ずる。講義は、受講生の細胞生物学及び生理学の理解にあわせて進める。</p>	仁木一郎 木村俊秀

授業科目名	講 義 等 の 概 要	担当教員
臨床検査医学	<p>臨床検査の実際と理論を総論及び各論として各検査ごとに講義する。臨床検査は検体検査部門と生理検査部門に大別される。前者はさらに血液・凝固系，血清免疫系，生化学系，輸血系，微生物系に分かれ，病理部門も前者に区別される。さらに遺伝子検査も今後検体検査部一部門として重要になってくると考えられる。一方生理検査部門は，脳神経系検査，循環機能検査，呼吸機能検査等に区別される。これらの検査項目についての実際を学習する。臨床諸疾患の病態における各検査の実施とその解釈についても学習する。その上で検査診断学についても学習する。</p>	犀川 哲典
医療工学・情報学特論	<p>この講義は情報学と医療工学の2つの内容を担当者が分担して行う。</p> <p>(森)</p> <p>前半は医療工学について森が担当する。現在の臨床の場での画像診断は近年進歩が著しく，X線を使用したX線撮影，X線透視，X線CT(Computed Tomography)，超音波検査，磁気共鳴撮影(MRI：Magnetic Resonance Imaging)，血管造影(Angiography)等で得られた「医用画像データ」から立体的・3次元的に診断でき，かつ質的診断も十分可能となっている。この医用画像はほとんどDigital化されている特徴を持つ。これら診断法の原理と断層解剖を理解させ，基本的な診断技術を学習するとともに，遠隔画像診断(Teleradiology)の可能性などについても併せて学習させる。またこの画像診断法に，レーザー，高周波，形状記憶合金等をあわせて用いて治療に応用したInterventional Radiology (IVR) は，「低侵襲的治療 Less invasive therapy」の大きな柱のひとつであり，「皮膚に傷が残らない」，「病変をターゲットとして治療して正常部分の機能温存をはかる」，さらに「医療コストの低減」という大きなメリットを有し，患者の生活の質の向上と機能回復に寄与している。これら新しい診断法と治療法の原理と方法を理解させると共に，更に新しい方法を開発すべく医療工学の詳細をあわせて学習させる。</p> <p>(江島)</p> <p>後半は情報学の内容の授業を江島が担当する。情報学は情報現象を数量的に扱う研究分野の総称で，近年はその方法が医学研究へ活発に応用されている。ここでは，確率論，統計学，及び情報理論の基礎を講義する。確率論では確率的な考え方の医学への応用を講義する。統計学では，標本収集，記述統計学，統計的推論，標本分布論等を講義し，実データ解析例の解説を行なう。情報理論では，シャノン情報量，エントロピー，相対情報量の基礎理論と応用について述べる。病原微生物感染システムに関する実際の研究例についても講義する予定である。</p>	森江 島 伸 宣興

授業科目名	講 義 等 の 概 要	担当教員
健康科学特論※1	<p>健康増進が包括医療の最初の段階であることを学び、健康の維持、増進の方策を運動生理学、栄養、休養の面から学習させる。また、第3次予防医学としての機能回復、リハビリテーションなど生活の質の向上を目指した医療について習得させる。</p> <p>本年度は以下のテーマを主軸に展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動と健康 ・健康増進の生理学 ・運動力学と歩行 ・膝関節と日常生活動作 ・手のバイオメカニクス 	
がん化学療法臨床薬理・薬剤学	<p>がんの化学療法、抗がん剤のPK/PD、臨床薬理、抗がん剤のレジメン管理、抗がん剤の混合調製、がん化学療法施行患者の服薬指導（治療計画、薬剤の作用機序、副作用とその対策）、疼痛緩和医療などを習得させる。</p>	大橋 京一 武山 正治 伊東 弘樹 佐藤 雄己 槇原 洋子
臨床がん化学療法学	<p>患者とのコミュニケーション・スキルの習得、化学療法（抗がん剤の他、分子標的薬・ホルモン治療薬・抗体治療薬を含む）の適応及び治療選択法の習得、薬剤投与法の習得、効果判定法の習得、支持療法の習得、外来治療法の習得、緩和治療の習得、薬剤に関する薬理の理解、がん臨床研究の方法論の理解と実際、標準的化学療法の開発の理解、新規抗がん剤の臨床開発の理解、新規分子標的薬剤の臨床開発の理解、薬理ゲノム学的研究についての理解を目標とする。</p>	白尾 國昭

注. 教員の研究内容については、大分大学ホームページ(<http://www.oita-u.ac.jp/>)をご参照ください。

※1 「健康科学特論」は担当教員不在のため、平成22年度は開講していません。

13. 医科学専攻 授業科目及び単位数（平成22年度現在）

	授業科目の名称	年次	単位数		修士課程修了の要件
			必修	選択	
授 業 科 目 の 概 要	基礎生命科学概論	1	1		本研究科修士課程に2年以上在学し、研究科規程の定めるところにより、必修科目22単位及び選択科目から8単位以上、合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格すること。
	人体形態学	1	2		
	人体機能学	1	2		
	分子医科学	1	1		
	病理・病態学	1	2		
	社会医学	1	1		
	環境生命科学	1	1		
	臨床医学概論	2	1		
	生命倫理学	2	1		
	医科学演習	1・2	2		
	医科学特別研究	1・2	8		
	基礎生体科学	1		1	
	人体形態学実習	1		1	
	基礎生命科学実習	1		2	
	免疫学特論	1		2	
	感染防御医学	1		2	
	遺伝・再生医学	1		2	
	臨床薬理・薬剤学	1		2	
	受容体による情報伝達と創薬科学	1		1	
	臨床検査医学	1		1	
医療工学・情報学特論	1		2		
健康科学特論※1	1		2		
がん化学療法臨床薬理・薬剤学	2		2		
臨床がん化学療法学	1・2		2		

※1 「健康科学特論」は担当教員不在のため、平成22年度は開講していません。

14. 医科学専攻 授業時間割概要

	1時限	2時限	3時限	4時限	6時限	7時限
		9:00 ~10:30	10:40 ~12:10	13:10 ~14:40	14:50 ~16:20	18:10 ~19:40
一般学生 (非就業者)	医科学演習・医科学特別研究				講義	
					【実習科目】 18:10~21:20	
社会人① (医療・福祉関係に従事)	医療・福祉関係の学生は日常業務の中からテーマを設定し、指導教員の指導のもとに勤務先で研究を行うことができる				講義	
					【実習科目】 18:10~21:20	
社会人② (上記以外の職種に従事)					講義	医科学演習・医科学特別研究 (e-ラーニング等の活用)
					【実習科目】 18:10~21:20	

15. 医科学専攻 指導教員（教授等）の連絡先一覧（平成22年5月現在）

教 員 名	内線番号	FAX番号	E-mail	備 考
あおのひろし 青野裕士	5731	097-586-5739	aonoh	
いずみたつろう 泉達郎	5830	097-586-5839	izumit	
うえのとくみ 上野徳美	5601	097-586-5619	ueno	
えしたゆうき 江下優樹	5701	097-586-5702	yeshita	
えしまのぶおき 江島伸興	5372	097-586-5619	eshima	
おおはしきょういち 大橋京一	5952	097-549-6044	rinyaku1	
おのかつしげ 小野克重	5650	097-586-6646	ono	
かどたじゅんいち かど田淳一	5800	097-549-4245	kadota	
かわのけんじ 河野憲司	6700	097-549-2838	kekawano	
かわはらかつのぶ 川原克信	5850	097-549-4449	kkawahar	
かわもとふみひこ 川本文彦	6741	097-586-6741	hiko	
きしだてつこ 岸田哲子	5751	097-586-5754	kishida	
きたのせいごう 北野正剛	5840	097-549-6039	kitano	
きたのたかあき 北野敬明	6344	097-586-6344	tkitano	
くほたとしあき 久保田敏昭	5900	097-549-6043	tkubota	
くほたなおじ 久保田直治	5605	097-586-5619	nkubota	
くまもととしひで 熊本俊秀	5810	097-586-6502	kumagoro	
さいかわてつなり さい川哲典	6037	097-586-6059	saikawa	
しげみつおさむ しげみつ光修	6600	097-586-6601	oshige	
しらいしりのり 白石憲男	6148	097-586-6307	norioh	
しらおくにあき しろ尾國昭	5734	097-586-6276	kshirao	
すずきまさし すずき木正志	5913	097-549-0762	suzukim	
たけやままさはる たけ武山正治	6100	097-586-6119	takeyama	
つむらひろし つむら村弘	5870	097-586-6647	htsumura	
てらおたけし てらお尾岳	5820	097-549-3583	terao	
ならはらひさし なら原久司	5920	097-586-6687	naraharh	

教 員 名	内線番号	FAX番号	E-mail	備 考
に き いち ろう 仁 木 一 郎	5 7 2 0	0 9 7 - 5 8 6 - 5 7 2 9	niki	
にし その あきら 西 園 晃	5 7 1 0	0 9 7 - 5 8 6 - 5 7 1 9	a24zono	
の ぐち たか ゆき 野 口 隆 之	5 9 4 0	0 9 7 - 5 8 6 - 5 9 4 9	tnogu	
は せ がわ ひで お 長 谷 川 英 男	5 6 0 8	0 9 7 - 5 8 6 - 5 6 1 9	hasegawa	
はま だ ふみ ひこ 濱 田 文 彦	5 6 2 1	0 9 7 - 5 8 6 - 5 6 2 3	hamadaf1	
ひ ぐち やす のり 樋 口 安 典	6 2 7 3	0 9 7 - 5 8 6 - 6 2 7 3	higuchi	
ふじ き むのる 藤 木 稔	5 8 6 0	0 9 7 - 5 8 6 - 5 8 6 9	fujiki	
ふじ くら よし ひさ 藤 倉 義 久	5 6 3 0	0 9 7 - 5 8 6 - 5 6 3 2	ham8	
ふじ わら さく へい 藤 原 作 平	5 8 8 0	0 9 7 - 5 8 6 - 5 8 8 9	fujiwara	
み また ひろ みつ 三 股 浩 光	5 8 9 0	0 9 7 - 5 8 6 - 5 8 9 9	mimata	
み やけ ひで とし 三 宅 秀 敏	5 4 9 0	0 9 7 - 5 8 6 - 5 1 6 0	miyakeh	
みや ぎき えい し 宮 崎 英 士	6 1 4 9	0 9 7 - 5 8 6 - 6 3 0 7	eishida	
みや もと しん じ 宮 本 伸 二	6 7 3 0	0 9 7 - 5 8 6 - 6 7 3 9	smiyamot	
もり 森 ひろむ 宣	5 9 3 0	0 9 7 - 5 8 6 - 0 0 2 5	morihrmu	
もり やま まさ つぐ 守 山 正 胤	5 6 9 0	0 9 7 - 5 8 6 - 5 6 9 9	mmoriyam	
やま おか よし お 山 岡 吉 生	5 7 4 0	0 9 7 - 5 8 6 - 5 7 4 9	yyamaoka	
よし まつ ひろ のぶ 吉 松 博 信	5 7 9 0	0 9 7 - 5 4 9 - 4 4 8 0	hiroy	
よこ い いさ 横 井 功	5 6 4 0	0 9 7 - 5 8 6 - 5 6 4 9	yokoiisa	
よこ やま しげ お 横 山 繁 生	5 6 8 0	0 9 7 - 5 8 6 - 5 6 8 6	yokoyama	
よし おか ひで かつ 吉 岡 秀 克	5 6 7 0	0 9 7 - 5 8 6 - 5 6 7 4	hidey	
わた なべ まこと 渡 邊 誠	5 6 6 0	0 9 7 - 5 8 6 - 5 6 6 5	watanabe	

- (注) 1. 出願を希望する者は、あらかじめ志望する指導教員と相談の上出願してください。
2. 本学はダイヤルイン方式になっています。したがって、市外から電話をする場合は市外局番(097)及び局番(586)の後に内線番号をダイヤルすれば、担当教員と直接通話ができます。
3. E-mailは、ドメイン名以下(@oita-u.ac.jp)を省略して表示しています。

看護学専攻

平成23年度看護学専攻学生募集要項

1. 入試日程

区 分	第1次募集	第2次募集	第3次募集
出願期間	平成22年8月23日(月) ～平成22年8月27日(金)	平成23年1月5日(水) ～平成23年1月11日(火)	平成23年2月21日(月) ～平成23年2月22日(火)
試験日	平成22年9月27日(月)	平成23年1月25日(火)	平成23年3月8日(火)
合格者発表	平成22年10月15日(金)	平成23年2月9日(水)	平成23年3月20日(日)

※募集人員に満たない場合は、第3次募集まで実施予定です。

※第2次募集、第3次募集を行う場合は、大分大学ホームページでお知らせします。

2. 募集人員

看護学専攻 16名

3. 募集する専攻コース

看護管理・教育コース	両コース併せて16名
看護実践コース (含むがん専門看護師教育課程)	

4. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者（平成23年3月末までに出願資格に該当する見込みの者も可）

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号）
- (6) 大学に3年以上在学した者、外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者、又は我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めたもの
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 本学大学院において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達したものと及び平成23年3月末日までに22歳に達したもの

5. 出願資格認定

出願資格(6)、(8)のいずれかにより出願しようとする者については、事前に出願資格の審査を受け、出願資格を有することが認定された者のみ出願することができますので、関係書類を次により提出してください。(出願資格認定を希望する者は、事前に志望する指導教員に相談してください。)

(1) 出願資格(6)により出願しようとする場合

提出書類	摘要
① 出願資格認定申請書	本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。
② 成績証明書	出身学校の長が証明したもの。
③ 在学証明書 (在学年次が明記されているもの)	

(2) 出願資格(8)により出願しようとする場合 (次の認定基準を満たしている場合に限ります。)

① 認定基準

看護系短期大学、専修学校、各種学校等の卒業生で、次の各号の全てに該当するもの

- ア 看護師、保健師又は助産師の資格を有すること。
- イ 上記アの資格で、5年(実質)以上の実務経験があること。
- ウ 研究会・学会発表もしくは研究報告等の経験があること。
- エ 研究テーマを持ち、意欲的に学ぶ姿勢があること。

② 提出書類

提出書類	摘要
① 出願資格認定申請書	本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。
② 業績一覧	本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。(主な研究会発表等について確認できる書類のコピーを各1部添付してください。ただし、提出する書類は3篇までとします。)
③ 研究計画書	本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。
④ 免許証の写	看護師、保健師又は助産師の免許証の写(A4サイズに縮小してください。)
⑤ 在職期間証明書	5年(実質)以上の実務経験を有することの証明書

- (3) 提出期間
- | | |
|-------|---------------------------------|
| 第1次募集 | 平成22年7月20日(火)～7月23日(金)17時まで(必着) |
| 第2次募集 | 平成22年12月1日(水)～12月3日(金)17時まで(必着) |
| 第3次募集 | 平成23年1月24日(月)～1月25日(火)17時まで(必着) |

(4) 提出方法 郵送に限ります。

「速達簡易書留」郵便で、封筒の表に「出願資格認定申請書在中」と朱書きし、郵送してください。

(5) 提出先 大分大学学生支援部入試課(旦野原キャンパス)

(6) 認定の結果 認定の結果は、下記期日までに本人に通知します。

- | | |
|-------|----------------|
| 第1次募集 | 平成22年8月10日(火) |
| 第2次募集 | 平成22年12月20日(月) |
| 第3次募集 | 平成23年2月14日(月) |

6. 出願手続

- (1) 出願期間
- | | |
|-------|---------------------------------|
| 第1次募集 | 平成22年8月23日(月)～8月27日(金)17時まで(必着) |
| 第2次募集 | 平成23年1月5日(水)～1月11日(火)17時まで(必着) |
| 第3次募集 | 平成23年2月21日(月)～2月22日(火)17時まで(必着) |


(2) 出願方法

- ① 第2志望まで出願することができます。
- ② 出願を希望する者は、**出願する前に志望する指導教員（P.38に掲載されている指導教員の教育・研究内容及び連絡先一覧を参照）と相談の上**、志望する専攻コースを定めて出願してください。第2志望まで出願する者は、第2志望の指導教員にも必ず相談してください。
- ③ 出願書類等は、持参又は郵送により、提出してください。
- ④ 願書受付場所 大分大学学生支援部入試課（旦野原キャンパス）
- ⑤ 受付時間 9時から17時まで
- ⑥ 郵送の場合 「速達簡易書留」郵便で、下記あてに郵送してください。

(あて先)〒870-1192 大分市大字旦野原700番地

大分大学学生支援部入試課

(3) 出願書類等

出 願 書 類 等	摘 要
① 入 学 志 願 書	本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。
② 受 験 票 ・ 写 真 票	
③ 入学検定料払込証明書 (30,000円)	<p>以下のいずれかの方法により本学指定口座に振込んでください。</p> <p>①金融機関（郵便局又はゆうちょ銀行を含む）窓口での払込 本学所定の振込用紙を用い、金融機関（郵便局又はゆうちょ銀行を含む）窓口で振込手続を行ってください。</p> <p>②コンビニエンスストア（一部）での払込 本学ホームページ http://www.oita-u.ac.jp/から払込専用ホームページへアクセスするか、直接下記URLにアクセスし、指示に従い払込手続を行ってください。 (払込専用URL) http://www.oita-u.net/ (携帯電話用URL) http://www.oita-u.net/mobile/</p> <p>※フィルタリングサービスをご利用の携帯電話からは、アクセスできないことがあります。</p> <div style="text-align: center;"></div> <p>振込み後は、①の場合は「郵便振替払込受付証明書（大学提出用）」を、②の場合は収納証明書（コンビニによっては領収書）を、受験票下の貼付欄にはがれないように糊付けしてください。 ※手数料は本人負担です。 ※国費外国人留学生については、納付する必要はありません。</p>
④ 成 績 証 明 書	出身学校等の長が証明したもの。 (ただし、出願資格認定申請時に提出済みの場合は、不要です。)
⑤ 卒業(見込)証明書 又は修了(見込)証明書	出身学校等の長が証明したもの。
⑥ 学位授与証明書 又は学位授与申請書 受理証明書	出願資格②に該当する者は、大学評価・学位授与機構が証明した学位授与証明書又は学位授与申請書受理証明書を提出してください。

⑦ 研究計画書	本要項に添付している本学所定の用紙を使用してください。 (ただし、出願資格認定申請時に提出済みの場合は、不要です。)
⑧ あて名票	本要項に添付しているあて名票に志願者の郵便番号、住所（合格通知等を受け取る場所）及び氏名を必ず記入してください。
⑨ 受験票等送付用封筒	本要項に添付している本学所定の長形3号の封筒に郵便番号・住所・氏名を明記し、郵便切手（350円）を貼ってください。
⑩ 外国人登録原票記載事項証明書	日本に在住する外国人は、市・区・町・村長の発行した外国人登録原票記載事項証明書を提出してください。なお、入学志願書等には、この証明書記載の氏名を記入してください。
⑪ 受験及び就学承諾書	在職のまま在学しようとする者（本要項P.28参照）は、出願に際して本要項に添付している本学所定の用紙により、所属機関長（病院所属であれば病院長）の受験及び就学承諾書を提出してください。また、提出にあたっては、 事前に指導教員と相談 してください。

7. 出願上の注意事項

- (1) 入学志願書の記入漏れ等がないように十分留意してください。
- (2) 一度受理した出願書類等及び入学検定料は、いかなる理由があっても返還しません。
- (3) 出願期間後に到着したもの及び出願書類等の不備なものは受付できません。
- (4) 出願書類等は一括してとりそろえ、志願者が直接出願してください。
- (5) 出願書類の記載事項と事実が相違していることが判明した場合は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。
- (6) 入学志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人大分大学個人情報保護ポリシー」に基づき、入学者選抜に係る業務・統計処理などの付随する業務以外には利用しません。ただし、入学科・授業料免除（猶予）及び奨学金を申請した者にとっては、選考資料として利用します。

8. 受験票の交付

受験票は、出願書類受理後、本人に郵送により交付します。

なお、試験前日までに受験票が到着しないとき、又は受験票を紛失したときは、出願時に提出したものと同一の写真を1枚持参の上、試験当日の9時30分から10時までに受付へ申し出てください。

9. 入学者選抜方法

- (1) 学力検査等
小論文（看護学及び医療・保健・福祉に関する問題）、口述試験及び成績証明書により行います。
- (2) 試験期日及び学力検査科目

期	日	科目名等	時間
第1次募集	平成22年9月27日(月)	小論文	10時30分～12時00分
第2次募集	平成23年1月25日(火)		
第3次募集	平成23年3月8日(火)	口述試験	13時00分～

※試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後20分以内に試験室へ到着した場合に限り、受験を認めます。

- (3) 試験会場

大分大学医学部 挾間キャンパス

所在地 由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地（P.42 大分大学位置図参照）

交通アクセス ◎バス利用（大分バス）

トキハデパート（府内町）前又はJR大分駅前から「大学病院」行きを利用
「大学病院下車」（所要時間約40分：410円）

10. 修了後の取得資格について

本専攻は教職課程の認定を受けております。

養護教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状「看護」を所持する本専攻入学者に対して、本専攻を修了することにより、それぞれ養護教諭専修免許状及び高等学校教諭専修免許状「看護」を取得する資格が与えられます。

11. 長期履修制度について

この制度では、標準修業年限を超えて計画的に授業科目を履修し修了することにより学位を取得することができます。長期履修制度を利用できる対象者は、有職者及び正規の履修期間内で修学が困難な事情がある者（家事、育児及び介護など）です。

この制度の利用は原則として入学時の申請により認められます。また、修学状況等の変動により、申請した修業年限を短縮することも可能です。

長期履修学生として認められた場合の授業料は、下記の「授業料の納入例」を参照して下さい。

また、入学後履修期間を延長する場合、授業料総額に追加的費用が発生します。

なお、申請方法等については後日合格通知書等でお知らせします。

【授業料の納入例】（年度により変更がないと仮定した場合）

標準修業年限（2年）

1年次 (535,800円)	2年次 (535,800円)	1,071,600円
-------------------	-------------------	------------

ア 入学時に申請し、3年の長期履修学生として認められた場合の授業料年額

1年目 (357,200円)	2年目 (357,200円)	3年目 (357,200円)
-------------------	-------------------	-------------------

$$1,071,600円 \div 3年 = 357,200円$$

イ 入学時に申請し、4年の長期履修学生として認められた場合の授業料年額

1年目 (267,900円)	2年目 (267,900円)	3年目 (267,900円)	4年目 (267,900円)
-------------------	-------------------	-------------------	-------------------

$$1,071,600円 \div 4年 = 267,900円$$

12. 社会人への特例措置（昼夜開講制）

近年、大学院における社会人の再教育への要望が高まっていますが、通常の方法のみで大学院教育を実施した場合、社会人は勤務を離れて就学することが必要となるため、大学院教育を受ける機会が制約されることとなります。このため、大学院設置基準第14条では、次のような規定のもとに、社会人の就学への配慮をしています。

「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」

このことを踏まえ、本学修士課程看護学専攻では、社会人が更なる探求の機会を取得できるように、上記の「教育方法の特例」を適用して、昼夜開講制による授業等を平成16年度から実施しています。

13. がん専門看護師の資格取得を希望する者の履修について

本学修士課程看護学専攻では、平成21年度から専門看護師「がん看護」の資格取得に必要な授業科目を設けました。平成21年4月から適用の教育課程は、平成22年度に日本看護系大学協議会における「専門看護師教育課程」の認可の申請を行う予定です。

専門看護師資格取得に必要な教育課程における履修科目や実習などの要件は、P.36「16. 看護学専攻 履修方法及び概略図」となりますが、志望する者はあらかじめ事前相談窓口の寺町芳子教授（P.38の指導教員の連絡先一覧参照）に必ず相談して出願してください。

14. 入学案内

1) 大分大学大学院医学系研究科の理念

最新の学術を教授・研究し、高度の医学及び看護学の知識と技術並びにそれらの本義を見失わない道徳観と、それを支える豊かな教養を身につけた医療人及び研究者を育成し、もって医学及び看護学の進歩、国民健康の維持増進、さらに医療・保健を中心に地域及び国際社会の福祉に貢献する。

また、「患者本位の最良の医療」を基本理念とし、高度先進医療の開発と提供及び倫理観豊かな医療人の育成により地域社会の医療・福祉の向上に貢献する。

2) 大学院医学系研究科修士課程の教育目標

医療全般にわたって広い視野と高い見識を持ち、優れた指導力を持った教育者、研究者及び国際社会に貢献できる人材を育成する。

3) 大学院医学系研究科修士課程看護学専攻の教育目的・目標

①教育目的

医療全般にわたって広い視野と高い見識を持ち、専門的な知識と科学的思考、論理的判断を基に他の職種と連携をとりながら、個人とその家族又は集団の持つ健康問題の解決のために適切な援助ができる豊かな人間性を持った看護実践専門家、優れた指導力を持った看護教育者、看護学の学問体系の確立のための研究者及び国際社会に貢献できる人材を育成する。

②教育目標

共通科目及び専門科目における講義、演習、臨地実習及び特別研究を通して、以下の資質を備えた人材を育成する。

- (1) 看護倫理を各専門領域の看護実践に応用することができる人材
- (2) 看護実践及び看護管理に関する高度な専門知識と技術を発揮することができる人材
- (3) 保健・医療・福祉の専門職との連携において、看護専門職としての意思決定及び主体的行動がとれるとともに、指導力を発揮することができる人材
- (4) 看護教育の理論と実践に関する高度な知識と技術を修得し、優れた教育活動を実践することができる人材
- (5) 看護理論の検証や看護技術の開発、検証を行い、実践に応用することができる人材
- (6) 複雑かつ多様な人々の健康問題に柔軟に対応し、学術的及び国際的に活躍することができる人材

4) 修業年限

2年を標準とします。

5) 学生定員

定員	入学定員	収容定員
専攻 看護学専攻	16	32

15. 看護学専攻 授業科目の講義等の概要及び担当教員（平成22年度）

区分	授 業 科 目	講 義 等 の 概 要	担当教員
共通 必修 科目	看護理論	実践科学としての看護学を追求する。学問構築の意味を理論分析や他の学問領域の理論と比較しながら明らかにし、看護学の基盤としての看護哲学及び科学史との関連を検証、看護科学とは何かを探究する。	佐藤和子
	看護倫理	「生命」「人間の尊厳」とは何かを探求する。そこで得た視点から看護における倫理的諸問題を分析し、問題解決のための方法を追究する能力を養うと共に、看護専門職の責務・役割について考察する。	佐藤和子
	看護研究概論	看護研究の本質と研究プロセスの基本を学び、看護実践や看護管理・教育実践の質向上、方法論の開発に向けた研究能力の基盤を培う。	三重野英子
共通 選 択 科目	看護研究方法論	研究とは自らが設定した仮説を証明すること。証明方法には量的分析法と質的分析法があり、ここではそれぞれについて具体的な手法を学ぶ。	穴井孝信
	保健医療福祉政策論	わが国の保健医療福祉政策において、看護に関連する法律や制度に関して、社会的背景や政策形成過程を含めて理解を深めるとともに、他国の政策や過去の政策との比較という視点を取り入れて、看護実践をとりまく法律や制度について討議し、政策形成過程における看護職の役割を探求する。	井手知恵子
	看護コンサルテーション論	看護職が職務を遂行する過程で直面する、複雑で対応困難な問題を抱える患者・家族の問題を解決していく上で、医療チームの中で、看護の立場からの相談の理論と技術を使って支援する能力を培う。	井手知恵子
	看護専門職教育論	専門職教育の視点から、質の高い医療/看護サービスが提供できる看護職に育つための自己学習能力を養う。また、スタッフスデベロップメントに必要な教育・指導能力を養う。	原田千鶴
	看護実践イノベーション論	保健医療福祉を取り巻く様々な環境変化、意識の多様化の中で、より良い看護ケアの実践につながる看護サービス管理ができるよう基本的管理能力に加え、問題や課題を改革するための能力や態度を養う。	原田千鶴
	看護解剖学	看護は疾病の有無に関わらず、新生児から老年を対象として、生活・行動を支援する必要がある。本科目は生活・行動、環境、健康そして看護実践に焦点をあてて、解剖学講義演習を行う。	荒川満枝

区分	授 業 科 目	講 義 等 の 概 要	担当教員
共	性 差 生 物 学	人間の構造上・機能上の性差を明らかにする。また、性の起源と有性生殖の意義及びホルモンと性差の関連を考える。加えて、性差に関する看護師の意思や対象との関わりについて学習する。	荒 川 満 枝
	※保健統計学特論	看護学における研究や臨床における活動をまとめる際に必要な統計技法を学ぶ。内容は、記述統計、t検定といった基礎的なものから、重回帰分析、多項ロジスティック回帰等の多変量解析も含む。	杉 田 聡
通	看 護 情 報 学	看護で取り扱う情報の性質について理解し、看護情報システムを活用できる能力を養うとともに、看護領域のシステム化活動において中心的な役割を果たすことができる能力を修得する。	島 岡 章
選	看護アセスメント学特論Ⅰ	身体の状態を適切に捉え、査定するためのフィジカル・アセスメント技術を修得する。看護実践の場で用いている技術を再検討し、看護者による系統的フィジカル・アセスメントの方法論を探究する。	三重野 英 子
	看護アセスメント学特論Ⅱ	本科目は看護アセスメント学特論Ⅰの関連科目に位置付けられ、対象者に適した看護実践を導くための方法「心理社会的アセスメント」について学ぶ。その際、実践例を通してアセスメントの基盤となる諸理論や方法を理解する。	原 田 千 鶴
科 目	が ん 病 態 生 理 論	「がんとは何か」。これを確実に理解すべく、遺伝子の正常な働き、細胞増殖の仕組みの理解を基本とし、がん細胞における遺伝子の異常と発癌機構、および体内におけるがん細胞の影響を理解し、疫学的エビデンスに基づく予防や早期発見について理解する。また、がんの進行に伴う身体的・精神的症状の病態生理や化学療法や放射線療法の基礎となるがん細胞に対する抗がん剤や放射線の作用について理解することにより、がん治療を受ける患者に必要な看護における症状マネジメントや理論的根拠を修得する。	井 上 亮
	が ん 治 療 論	がん病態生理論の講義をもとに、がん治療学総論と各臓器がんの診断・治療について、また、今後発展の望まれる最新治療についても理解することを目的とする。がん疾患に対する治療法を理解することにより、がん治療を受ける患者に対して必要な看護の理論的基盤を修得する。	井 上 亮

区分	授 業 科 目	講 義 等 の 概 要	担当教員
共通選択科目	が ん 看 護 論	がん患者やその家族を理解し、全人的ながん看護における卓越した実践をするための基盤となる概念や理論、看護モデルを探求する。これらの理論のがん看護の実践および研究への適用を検討し、がん看護実践のあり方や研究課題について考察すると共に、がん看護領域における倫理的課題を明確にすることにより、卓越したがん看護実践の理論的基盤を得る。	寺 町 芳 子
専 門 看 護 管 理 ・ 教 育 コ ス ト 目	※ 医 療 連 携 論	医療の対象や医療の場が多様化しているなかで、対象やケアを提供する者、さらに社会の制度が連携システムをどのように構築していくのかを検討する。そのなかで看護職者としての役割を考える。	福 井 幸 子
	看 護 経 営 組 織 論	組織論に照らして、自身の身近な医療・保健・福祉の組織を概観する。その上で経営組織的視点や経済的視点から企業（営利組織）と医療保健福祉（非営利組織）を比較検討し、非営利組織の経営における現状と課題を考える。	福 井 幸 子
	看 護 生 涯 教 育 論	看護者の生涯学習を支援するために、生涯教育理論を基盤にした学習、および人間形成に関する内容・方法、社会的システム、教育計画・条件整備などについて学ぶ。これらをふまえ、看護の学習者支援の方向性を考える。	福 井 幸 子
	※ 看 護 基 礎 教 育 論	看護学教育における歴史的展開や制度、基礎的学習理論、教育方法、教育評価について学ぶ。さらにそれらの事をふまえ、看護学教育の実際の中で生じる問題や課題について考察する。	宮 崎 史 子
	地 域 看 護 管 理 ・ 教 育 論	地域看護活動において、人々の健康レベルの向上を図る管理・組織運営機能について理解し、看護職の政策形成やその役割遂行上の課題を検討する。これにより地域の健康管理を保障する看護活動方法を探究する。	井 手 知 恵 子
	※ 健 康 と 病 い の 社 会 学	看護学の領域を含めた健康と病いに関わる事象を医療社会学の理論や手法により探求する。内容は、健康の不平等格差、医療者－患者関係、保健行動、病者役割、逸脱と医療化、等を含む。	杉 田 聡
	健 康 と 病 い の 思 想	看護学の領域も含めた健康と病いに関わる事象を考察する際に有用な思想を学ぶ。内容は、正常と異常の概念、医療者による社会統制と個人の自己決定、健康の権利と義務、ジェンダーとセクシュアリティ等を含む。	杉 田 聡
実 践 課 題 実 習	看護管理あるいは看護教育における実践上の課題を明確にし、問題解決へ向けての実践計画の立案、さらにその実践計画を実行し評価を行う。	看 護 系 教 員 (各教授及び 各准教授)	

区分	授 業 科 目	講 義 等 の 概 要	担当教員
専 門 護 コ 実 践 コ ス 科 目	成長発達看護学	<p>人のライフサイクル（受胎から）にそって、発達過程、社会の変動と健康及びその価値観などの視点から、対象理解と看護について諸理論と技術を学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受胎から新生児の看護 ・乳幼児期から学童・思春にある人の看護 ・成人期にある人の看護 ・老年期にある人の看護 	水 谷 幸 子
	クリティカル看護論	<p>クリティカル・ケア看護は、生命危機の状態にある患者の身体的安定・合併症予防や人としての尊厳を保ち、さらにその家族のニーズに応じた専門的な看護を提供することである。そのために求められる知識・技術・態度を探求する。</p>	井 上 亮
	慢性期看護論	<p>慢性の経過を辿る生活習慣病（糖尿病など）や難病（膠原病など）をもつ患者に対する看護実践には、特有の専門的知識や技術が必要である。本科目では、慢性疾患の特徴や慢性期にある人を理解し、ケアするための理論や諸概念(セルフケア論、自己効力感、エンパワーメント、病みの軌跡など)を学ぶ。これらを踏まえて、チーム医療、保健・医療・福祉の連携、継続看護(入院・外来・在宅)の実践能力を養う。</p>	濱 口 和 之
	がん看護援助論	<p>初診から再発期、終末期までの闘病過程におけるがん患者とその家族に生じるさまざまなニーズや問題に対して、多職種との連携をはかりながら、患者の生活調整やセルフケア能力をエンパワーメントする看護援助や調整について、卓越した看護実践能力を修得する。さらに、がん治療・がん看護の現状を踏まえ、がんの予防や早期発見に向けてのヘルスプロモーションにおけるがん看護専門看護師としての役割や援助の方法を考察する。</p>	寺 町 芳 子
	緩和ケア論Ⅰ	<p>緩和ケアに関連した理論や既存の研究成果や実践報告、個々の体験を活用しながら、終末期のがん患者の全人的ケアとしての症状マネジメントや精神的・社会的・スピリチュアル的苦痛に対するアプローチ法、補完・代替療法に対するアプローチ法、がん疾患以外の患者の緩和ケアについて探求し、がん看護専門看護師としての患者の状況に応じた卓越した看護の実践能力を修得する。</p>	寺 町 芳 子
	緩和ケア論Ⅱ	<p>がん治療やがん看護の基盤となる理論や既存の研究成果や実践報告、個々の体験を活用しながら、がん患者の家族のセルフケアを高める看護や在宅看護に関する学習を深め、終末期のがん患者とその家族への卓越した看護の実践能力を修得する。さらに、緩和ケアに関するチーム医療、倫理的問題、教育、研究などの現状と課題、その取り組みについての学習を深め、緩和ケアにおける看護援助のあり方や今後の課題について洞察する。</p>	寺 町 芳 子

区分	授 業 科 目	講 義 等 の 概 要	担当教員	
専 門 科 目	看 護 実 践 コ ス 	がん化学療法看護論	がん化学療法の実施におけるエビデンスやリスクマネジメントについて学び、がん化学療法を受ける患者に対する、有害事象の症状マネジメントや精神的・社会的苦痛の緩和を含めたアプローチ法について学習を深め、治療期に化学療法を受ける患者の緩和ケアにおける卓越した実践能力を修得する。さらに、これらの学びを踏まえがん化学療法におけるがん専門看護師の果たす役割を開発していく能力を修得する。	寺 町 芳 子
		在 宅 看 護 論	在宅で療養する様々な対象のニーズに適切に対応するために必要な保健医療福祉制度や理論、方法論について学び、在宅看護の専門性を探求する。	寺 町 芳 子
		サクセスフルエイジング論	加齢エイジングの概念を理解し、人々が生まれて最期を迎えるまでの一生涯にわたるセルフケア能力・QOL向上への看護の方法論を探究する。主として、生活習慣病予防・介護予防に関する援助を考える。	三重野 英 子
		ヘルスプロモーション看護論	ヘルスプロモーションの概念と国際的動向をふまえ、個人の健康推進を支援する方法論の開発と、健康推進のための技術の開発、組織の改変、政策づくりなどの環境整備における看護の機能について探求する。	志 賀 たずよ
		※ 家 族 看 護 論	家族を単位とした看護ケアの発展をめざし、家族看護学の背景理論と家族アセスメント、家族ケア機能を高める援助方法、家族の心理的サポート、健康教育、ケアマネジメント、家族カウンセリング、家族療法などの援助方法について理解する。	井 手 知 恵 子
		リハビリテーション看護論	リハビリテーション・障害の概念を理解し、リハビリテーションチームにおける看護の専門性を探究する。主として、身体機能に障害があるクライアントの看護の理論と方法論を扱う。	三重野 英 子
		実 践 課 題 実 習	看護実践の場における実践上の課題を明確にし、問題解決へ向けての実践計画の立案、さらにその実践計画を実行し評価を行う。	看 護 系 教 員 (各教授及び 各准教授)
特 別 研 究 科 目	特 別 研 究	研究課題の明確化を図る。研究計画を立案し、データを収集、分析する。論文を作成後にプレゼンテーションを行う。	各 教 授 及 び 各 准 教 授	
	実 践 課 題 研 究 I	看護実践上の問題及び課題の明確化を図る。看護実践計画立案と看護実践のデータ化、分析を行い、論文を作成する。論文作成後にプレゼンテーションを行う。	各 教 授 及 び 各 准 教 授	

区分	授 業 科 目	講 義 等 の 概 要	担当教員
特 別 研 究 科 目	がん看護 実践演習Ⅰ	さまざまな臨床問題を持つがん患者を受け持ち、直接ケアを通して、がん看護における専門看護師としての卓越した実践能力を養う。がん看護の実践に当たっては、がん看護学領域の専任教員のスーパーバイスを受けながら、専門的な知識と経験を積み重ね、がん看護のケア開発能力を培っていく。さらに、この実習を通してがん看護における倫理的課題や教育的課題を分析し、解決に向けての方向性を検討する。	寺 町 芳 子
	がん看護 実践演習Ⅱ	がん看護実践演習Ⅰにおける卓説した看護実践を踏まえ、がん看護専門の指導のもとに、さまざまな病期、病態のがんを持ちながら治療し、がんとともに生活している人とその家族へのケアと実際のがん看護専門看護師の活動を体験し、がん看護専門看護師としての役割(高度な実践、コンサルテーション、他職種との連携・調整、スタッフ教育、倫理的判断と調整、研究)を学ぶ。この実習での学びを基に、がん看護実践演習Ⅲに向けての自らの課題を明確にする。	寺 町 芳 子
	がん看護 実践演習Ⅲ	がん看護実践演習Ⅰ・Ⅱの実習を踏まえ、複雑で対応困難な問題をもつがん患者や家族に対して、専門知識や技術を用いて個別的なケア計画を立て看護師とともに卓越した看護を実践する。さらに、がん看護学領域の専任教員やがん看護専門看護師のスーパーバイスを受けながら、がん看護専門看護師の果たすべき機能に対して、貢献できる課題をアセスメントした上で、介入計画を立て実施し、がん看護専門看護師としての能力を開発する。	寺 町 芳 子
	がん看護 実践課題研究	看護研究の本質と基本的方法を学び、がん看護の実践の現場で生じる様々な問題や課題を研究を通して分析、改善し、実践の質を高める能力を養う。	寺 町 芳 子

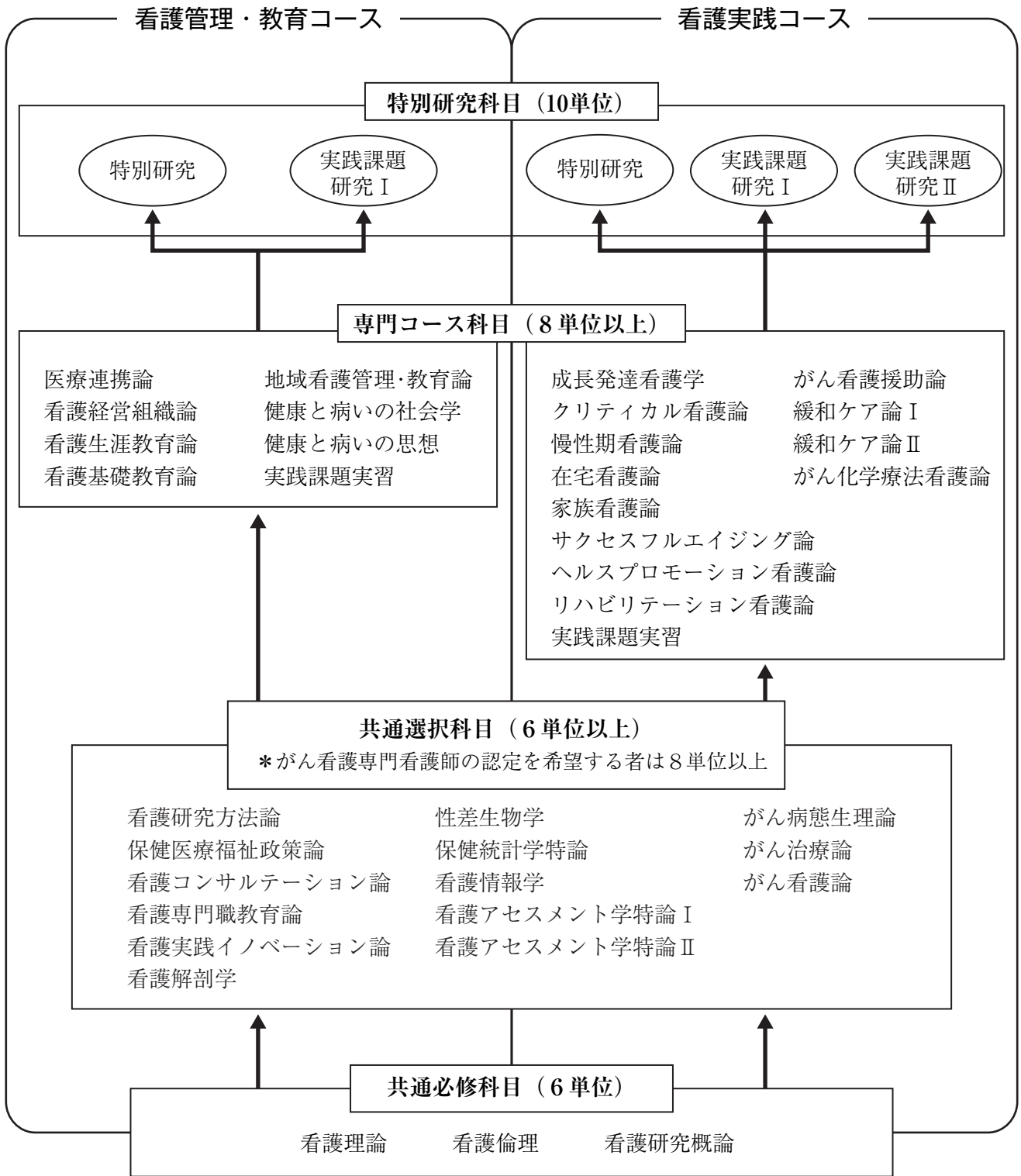
※は隔年開講のため、平成22年度は開講しません。

16. 看護学専攻 履修方法及び概略図（平成22年度）

指導教員の指導・助言のもとに、下表に掲げる授業科目のうち、共通必修科目6単位、共通選択科目から6単位以上（がん看護専門看護師の認定を希望する者は、●印の科目6単位、※印の科目の中から2単位以上）、所属する専門コース科目から8単位以上（がん看護専門看護師の認定を希望する者は、●印の科目を含め8単位以上）、特別研究科目10単位（がん看護専門看護師の認定を希望する者は、実践課題研究Ⅱ10単位）の計30単位（がん看護専門看護師の認定を希望する者は32単位）以上を履修するものとする。

区分	授 業 科 目	必要単位数	開講年次	専攻コース	
				看護管理・教育コース	看護実践コース
科 共通 目 必須	看護理論● 看護倫理● 看護研究概論●	6 単 位	1年・前期 1年・後期 1年・前期	2 2 2	2 2 2
共 通 選 択 科 目	看護研究方法論 保健医療福祉政策論※ 看護コンサルテーション論※ 看護専門職教育論※ 看護実践イノベーション論※ 看護解剖学 性差生物学 保健統計学特論 看護情報学 看護アセスメント学特論Ⅰ 看護アセスメント学特論Ⅱ がん病態生理論● がん治療論● がん看護論●	6 単位以上 (がん看護専門看護師の認定を希望するものは8単位以上)	1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
専 門 コ ー ス	看護管理・教育コース 医療連携論 看護経営組織論 看護生涯教育論 看護基礎教育論 地域看護管理・教育論 健康と病いの社会学 健康と病いの思想 実践課題実習	8 単位以上	1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次	2 2 2 2 2 2 2 2	— — — — — — — —
科 目	看護実践コース 成長発達看護学 クリティカル看護論 慢性期看護論 がん看護援助論● 緩和ケア論Ⅰ● 緩和ケア論Ⅱ● がん化学療法看護論● 在宅看護論 サクセスフルエイジング論 ヘルスプロモーション看護論 家族看護論 リハビリテーション看護論 実践課題実習	8 単位以上	1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次 1・2年次	— — — — — — — — — — — — —	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
科 目	特別研究 実践課題研究Ⅰ 実践課題研究Ⅱ●	10 単 位	2 年 次 2 年 次 1・2 年 次	10 10	10 10 10

各コースの学習過程



17. 看護学専攻 指導教員（教授等）の連絡先一覧（平成22年5月現在）

教員氏名	教育・研究内容	内線番号	FAX番号	E-mail
さとう かずこ 佐藤和子	看護学の基礎となるケアの概念や理論に関する研究。特に、「看護診断の妥当性に関する検討」や「尿失禁・排尿ケアに関する研究」に取り組んでいる。	5034	5034	satokaz
はらだちづる 原田千鶴	看護専門職の人的資源の育成・職場適応に関する研究にとりくんでいる。	5035	5035	charada
あらかわ みつえ 荒川満枝	解剖学、感染・免疫学を専門とし、研究では、健常な皮膚の常在細菌の分布や免疫力に関する研究、口腔ケアと免疫能力に関する研究、抗ウイルス効果を持つ抗体酵素の開発などをテーマにしている。	5032	5032	marakawa
すぎた さとる 杉田聡	健康や病いに関わる事象を医療社会学的に分析する。病い体験、病者役割、医療者－患者関係など病者や患者を対象とした研究や、看護学領域における情報のあり方や保健医療制度に関する研究の他、倫理的な考察も含む。	5033	－	ssugita
ふくい ゆきこ 福井幸子	学部教育では、主に成人看護学に関する教科、大学院では医療・看護の管理・マネジメントに関する教科を担当する。研究では医療や看護のシステム構築に関心をもち、さまざまな看護の場でのケアシステムを探索する。	5053	5053	fukui
てらまち よしこ 寺町芳子	がん看護や在宅看護に関する理論や研究に基づく、看護実践能力の開発や方法論の構築、地域連携について探求している。がん看護専門看護師教育課程を担当している。	5054	5054	teramach
いのうえ りょう 井上亮	講義は疾病論（内科・外科）の講義を担当している。また、脳神経外科専門医として、脳卒中を中心とした中枢神経系疾患の教育も重点的に行っている。研究は、分子生物学的手法を用いて、基礎的・臨床的な悪性脳腫瘍の遺伝子解析を行っている。	5051	5051	ryo
あな い たか のぶ 穴井孝信	母子保健学が専門。疫学調査による低出生体重児の原因及び対策について調査中。骨粗鬆症、腹圧性尿失禁の疫学的調査も行っている。	5071	5071	anaita
みや ぎき みこ 宮崎史子	専門は小児看護学である。健康障害をもった子どもとその家族の支援について・小児看護学における授業の展開方法について探求している。	5075	5075	fumikom
みず たに さちこ 水谷幸子	助産師の「わご」や周産期看護、性・生殖に関する研究	5072	5072	smizutan
いでち えこ 井手知恵子	地域看護活動、特に公衆衛生看護活動における看護実践能力の開発と方法論の構築、及び地域看護管理の理論と方法論の開発について探究している。	5094	5094	chide
しが たずよ 志賀たずよ	地区を単位とした地域看護活動方法に関する研究。予防的看護活動の理論と方法論、看護基礎教育における地域看護学教育について探求中。	5092	5092	t-siga
みえの えいこ 三重野英子	高齢者とその家族の健康を支援するための理論や看護方法を探究する。主に認知症高齢者の看護、高齢者への生活援助技術（足指・爪のケア、口腔ケア等）をテーマとした研究をすすめている。	5093	5093	eikomi
はまぐち かずゆき 濱口和之	糖尿病などの生活習慣病や遺伝性疾患の看護の在り方を学ぶ。また、医学的データに基づいた看護介入（ケア・看護治療）ができ、医療スタッフの中核として協調性をもち、チーム医療をリードできる看護師の育成をめざす。研究領域は、(1)代謝内分泌疾患（糖尿病・肥満・内分泌）、(2)臨床遺伝学	5091	5091	khamaguc

- (注) 1. 出願を希望するものは、あらかじめ志望する指導教員と相談の上、志望する専攻コースを定めて出願してください。（第2志望まで出願する者は、第2志望の指導教員とも必ず相談してください。）
2. 本学はダイヤルイン方式となっています。したがって、市外から電話をする場合は市外局番(097)及び局番(586)の後に内線番号をダイヤルすれば、担当教員と直接通話ができます。
3. E-mailはドメイン名以下(@oita-u.ac.jp)を省略して表示しています。

共 通 事 項

共 通 事 項

1. 障がいのある者等の事前相談について

障がいを有する等、受験上特別な措置及び修学上特別な配慮を必要とする可能性がある入学志願者については、次の事項を記載した相談申請書（様式任意）に医師の診断書を添えて下記期日までに本学学生支援部入試課に提出してください。

- | | | | |
|---|--------------------|----------------------|---|
| 〔 | ・障がいの種類・程度 | ・受験の際に特別な配慮を希望する事項 | 〕 |
| 〔 | ・修学の際に特別な配慮を希望する事項 | ・日常生活の状況及びその他参考となる事項 | 〕 |

第1次募集 平成22年7月23日（金）まで

第2次募集 平成22年12月3日（金）まで

第3次募集 平成23年1月25日（火）まで

2. 合格者発表

第1次募集 平成22年10月15日（金）10時

第2次募集 平成23年2月9日（水）10時

第3次募集 平成23年3月20日（日）10時

大分大学旦野原キャンパス教養教育棟前及び挾間キャンパス管理棟玄関前に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者には郵送により通知します。

また、大分大学ホームページ（<http://www.oita-u.ac.jp/>）にも合格者受験番号を掲載します。

なお、電話による合否の問い合わせには一切お応えできません。

3. 入学手続

(1) 入学手続日

第1次募集 平成22年10月28日（木）

第2次募集 平成23年3月26日（土）～3月27日（日）

第3次募集 平成23年3月26日（土）～3月27日（日）

(2) 受付時間 9時から17時まで

※入学手続の詳細については、合格通知とともに送付する「入学手続のご案内」によりお知らせいたします。

なお、入学手続日に入学手続をしなかった者は、入学辞退者として取り扱います。

4. 修了の要件

修士課程の修了の要件は、大学院に2年以上在学し、医科学専攻はP.19、看護学専攻はP.36の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格した者とします。

ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとします。

5. 学位の授与

修士課程医科学専攻を修了した者には、修士（医科学）の学位を授与します。

修士課程看護学専攻を修了した者には、修士（看護学）の学位を授与します。

6. 入学料及び授業料

入学料 282,000円

授業料（年額） 535,800円（前期分 267,900円 後期分 267,900円）

注1 入学料・授業料については、免除・徴収猶予・奨学融資の制度があります。申請手続きは、入学料・授業料の納付前に行う必要がありますので、詳細については学生支援課奨学支援グループ（TEL 097-554-7386）へお問い合わせください。

注2 授業料については、希望により前期分の納付の際に後期分も合わせて納付することができます。

注3 国費外国人留学生については、入学料・授業料を納付する必要はありません。

注4 入学料・授業料は改定の可能性があります。在学中に授業料改定が行われた場合には、新授業料が適用されます。

7. 奨学金制度

日本学生支援機構の奨学金制度があり、本人の申請により貸与が認められた場合の貸与月額は、次のとおりです。

大学院第一種奨学金（無利子）	月額 50,000円又は88,000円
大学院第二種奨学金（有利子）	月額 50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円から選択

8. 大分大学入学料・授業料奨学融資制度

平成18年度より大分銀行と連携して発足した制度です。学生本人が大分銀行から当期授業料の融資を受けますが、元本返済は修了後となり、在学中の利息を本人に代わり本学が支払います。（利息の返還義務はありません）融資制度利用については条件がありますので、詳しくは、学生支援課奨学支援グループ（TEL 097-554-7386）にお問い合わせください。

9. 学生教育研究災害傷害保険制度

この保険は、大学院在学中の実験・実習等の正課、学校行事又は課外活動中及び通学中に不慮の事故により被った負傷、死亡等の災害に対する補償制度であり、保険料は2年間分で2,100円です。

10. 問い合わせ先

大分大学学生支援部入試課

〒870-1192 大分市大字旦野原700番地

TEL 097-554-6701

11. 大分大学位置図

大分大学医学部（挾間キャンパス） ※試験会場

所在地 由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地

T E L 097-586-5540, 5541

交通アクセス ◎バス利用（大分バス）

トキハデパート（府内町）前又はJ R大分駅前から「大学病院」行きを利用
「大学病院」下車（所要時間約40分：410円）

大分大学学生支援部入試課（旦野原キャンパス） ※入学志願書提出及び入学手続き

所在地 大分市大字旦野原700番地

T E L 097-554-6701

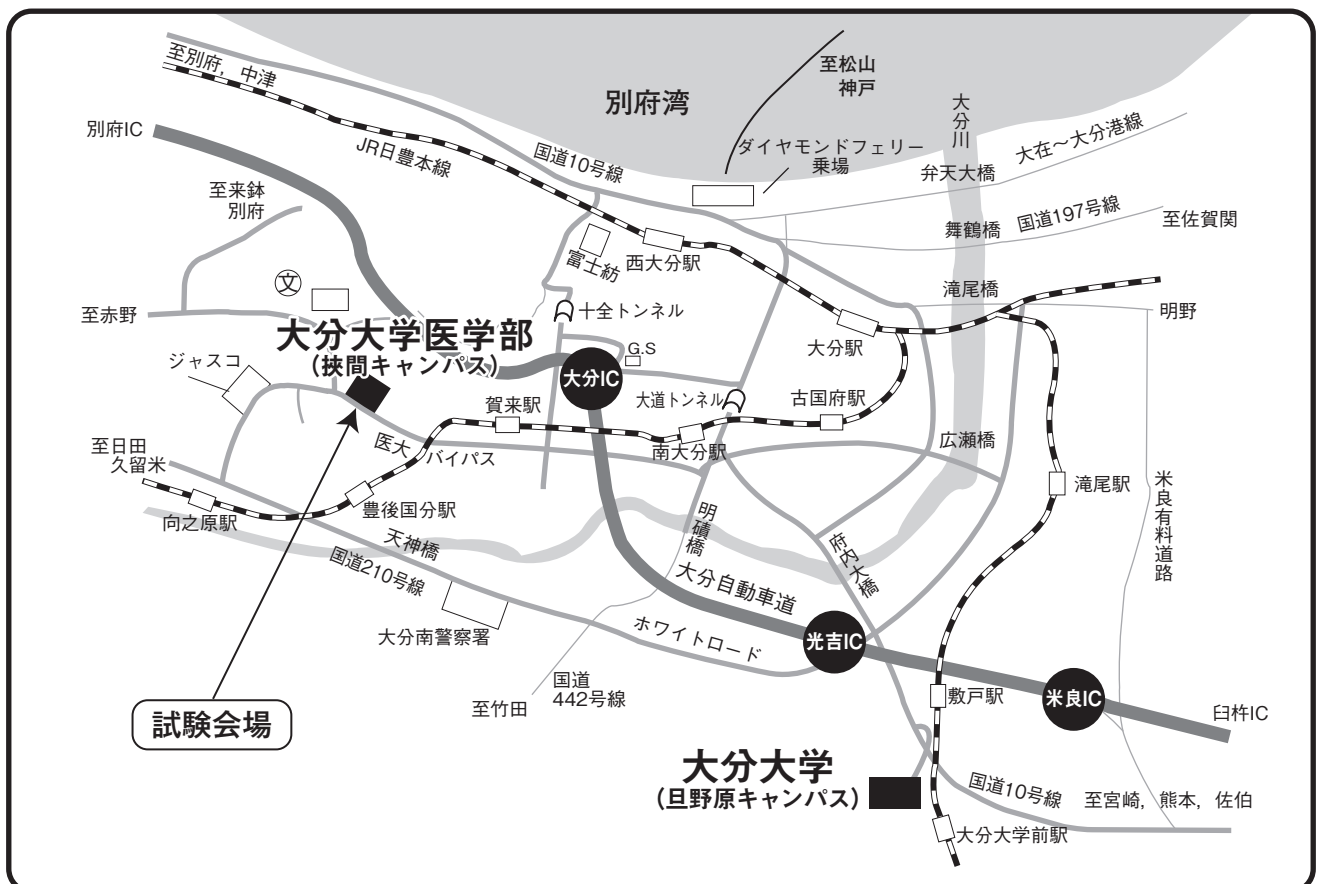
交通アクセス ◎J R利用（J R豊肥本線）

「大分大学前駅」下車（大分駅より約12分：240円），徒歩約5分

◎バス利用（大分バス）

トキハデパート（府内町）前から

- ・「高江ニュータウン・大南団地」又は「大分大学」行きを利用。「大分大学」又は「大分大学正門」下車（約40分：360円）
- ・「戸次，白杵，竹田，佐伯」行きを利用。「大分大学入口」下車（約40分：350円），徒歩約10分



入学試験に関する問い合わせ先

〒870-1192 おおいた し おおあざだん の はる 大分市大字旦野原700番地

大分大学学生支援部入試課

TEL 097-554-6701

なお、この募集要項の内容は

ホームページ (<http://www.oita-u.ac.jp/>) にも掲載しています。